“乗り継ぎ券で、『みどりっこバス』『あいあいバス』『芥見岩っこバス』『みわっこバス』を乗り継いで少し遠くへどうぞ”

芥見東 南の

みどりっこバス 通信

芥見東・南地区コミュニティバス等運営協議会 広報誌第25号平成29年11月1日発行
発行元：広報部（芥見東公民館内）　電話 FAX 241-1062

『みどりっこバスヘルパー』さんを募集しています。お問い合わせは下記へ→芥見東公民館内・電話 241-1062・芥見南公民館内・電話 241-2143

住民みんなが動いて出した知恵と汗

みどりっこバスヘルパー/初代運営協議会事務局長
寺井 和雄さん

バスが動く前に人が動く。みどりっこバスは芥見東交通課題住民アンケートから始まりました。7割の方がコミバス導入に賛同し、アンケート末尾の「一緒に考え動いてくださる方」募集欄にはおよそ２０名の方が手を挙げてくれました。１０年前のことです。「アンケートは取るだけ！？」との声もある中、多くの方から意見やアイディアが寄せられました。

住民アンケートで集まった様々な意見・提言から最適手段を分析・抽出

「誰もが住みよいまち」を目指して、東・南自治会連合会や社協の役員、市役所の職員だけでなく、住民ボランティアも、みんなで動いて出した知恵と汗。最適ルートやバス停が、そして愛らしいキャラクターが誕生、全国初の割安回数券やヘルパー（車掌）制も考えられ、実現しました。ボランティアの輪は広がり、中学生諸君も加わって、今日もヘルパーはみどりっこバスと共に動いています。

愛情いっぱい！　みどりっこバス

三重県松阪市　海住さつきさん

「どうぞ、おかけください」
大きな買い物袋を抱えた女性が乗ってこられたので、そう言って席を立とうとしたら、「いいの、いいの、私、次で降りるから」そう言って、てきぱきとバス前方へ向かい、買い物袋をていねいに床において、ポケットからパスケースを取り出すと、早速前の席に座っていた別の女性と近況報告が始まった。

「最近、見なかったねえ。何かあった？」
「娘が孫連れて帰って来てましてね。娘の車で買い物に連れて行ってもらってました。」
「それはにぎやかでよろしいねえ。」

あっという間に次の停留所につき、ドアが開くと、手押し車を押したおばあちゃんが乗車口でよろけた。「危ない！ 奥さん、ちょっとそこで待ってて」そう言って、あっという間に乗客の男性が飛び降り、よろけたおばあちゃんを支える。いつの間にか、別の乗客が手押し車を引き上げ、おばあちゃんは無事乗車。「ここ、座って」入口に一番近い席にいた白髪の女性が立ち上がる。しばらく車内では談笑が続いていたが、二つ目の停留所でこの女性が突然声を上げる。「運転手さん、この奥さん、ここで降りるからちょっと待って」どうやら、おばあちゃん、ご自分が降りる場所をお忘れになっていた模様。一歩、一歩ふみしめながらゆっくり降車したおばあちゃんの後ろから、さりげなく手押し車が降ろされた。みどりっこバスの車内は、みんなの思いやりと気配りにあふれていた。

みどりっこバスはみんなの「マイカー」なのだ。降車してだんだん遠ざかるバスに向かって手を振っている私に、車内から誰かが手を振り返してくれた。愛情たっぷりみどりっこバス！
こんな街に住みたい。

まもなく達成か！ みどりっこバス ご乗車60万人 さて、いつでしょう？

みどりっこバスご乗車５０万人達成記念式典がつい先日のように思い出せるが、既にあれから１年５ヶ月が経っている。６０万人に達するのももう間近になってきた。今年中にはちょっと無理かもしれないが来年早々には６０万人に達しそうな気配がする。さてその日はいつになるか？皆さん予想を立ててみてはどうでしょう。

平成２８年５月２１日
５０万人乗車記念式典

地域の事業所がバス車体広告料で応援

～みどりっこバス本格運行継続基準見直しに向けて～

芥見東･南地域の足として無くてはならない交通機関となっている“みどりっこバス”も、運行経費は乗車料金収入を大きく上回っており、赤字分は岐阜市からの補助金で賄っている。その補助金も市の規定により、みどりっこバスでは年間 9,500,000 円となっていて、赤字がそれを越えると本格運行継続が難しくなる。昨年はスーパーマーケットのバローが店舗改装のため、一部を残してしばらくの間閉店になっていたこともあって乗車料金収入が少なからず落ち込んでいた。このままでは１日当たり平均１８８人以上の乗車が必要となり、この数カ月の平均乗車数１７４人では目標が達成できない事態になっていた。不足分をバス車体広告を増やすことで補おうと地域の事業所にお願いしたところ、新しく６枚の広告が掲示されて広告料は 61,000 円／月に増えた。赤字を解消するための目標平均乗車数が１６６人となり、現在の利用状況を維持することで本格運行判断基準をクリアする見込みが立ちました。広告掲示に参入していただいた事業所のおかげと喜んでいます。地域の皆さんも乗車料金収入を増やすよう、みどりっこバスを利用しましょう。

年間経費	補助上限額（岐阜市）	目標収入額			目標利用者数
			広告収入	乗車料金収入	
15,655,912	9,500,000	現	216,000	5,949,912	182 人
		新	732,000	5,433,912	166 人

～車体広告掲示で応援いただいている事業所～

［順不同］

大洞岐協苑
みどり病院
大洞薬局
しいのみ薬局
サンウエスパ
おやま皮膚科
医療法人輝翠会森田整形外科
安達整形外科病院

ご苦労さんでした 今年も活躍 中学生ボランティア ありがとう

藍川東中学校の生徒達が、７～８月の夏休み中“みどりっこバス”に乗って乗客の方のサポートをしてくれました。まだ初めての１年生、これまで何度も経験してボランティアでバスに乗るのを楽しみにしてきてくれた２･３年生まで、たくさんの生徒の明るい態度に乗客の皆さん、心を和ませました。生徒達や保護者の方から頂いた感想文を紹介します。

１年Aさん

私はこのボランティアに参加して良かったと思いました。参加して、地域の方々に「おつれさま」などの声かけをしていただきました。その時私はもっとなにかをしたい、できるだけ役に立ちたいと思い、はじめてだったけど、あいさつをしたり、荷物をのせるのを手伝ったりしました。でもまだ声も出せたと思うので次があったら、もっと声を出していきたいです。

１年Bさんのお父さん

ずっと前からみどりっこバスボランティアに参加するのを心待ちにしていました。「みどりっこバスはいつなの？」といつも聞いていました。参加を決める時も「いっちゃんにはむつかしいねー！」って言うと泣いて怒って大変でした。やっと夢がかないました。

ボランティア活動らしき事はあまり出来ませんでしたがいつきの良い思い出となりました。

ありがとうございました。

２年Cさん

バスにはお年寄りが多く乗車されていて、お年寄りの方は多くの荷物を持っている人がたくさんいたので、「持ちましょうか？」と声をかけることができました。また、お年寄りの方から「ボランティアさん？」「ありがとう」などと声をかけてくださいました。これからもこういったボランティアを通して、地域に貢献していきたいと思いました。

３年Dさん

今年３月にこの地域に来たばかりの私ですがみどりっ子バスのサポーターをしたことで随分とここの土地と人になじめたような気がします。バスに乗ってくる常連さんたちにも名前と顔を覚えてもらえたし、たくさんのお喋りもでできたので楽しかったしとてもうれしかったです。正直、最初は何をやれば良いのか分からなくて少しヒマだったけど、徐々に自分からやることを見つけるようにしはじめたら、本当に楽しい楽しい経験にすることができました。

３年Eさん

私は３年連続やってきました。今年は８月中に２回みどりっこバスサポーターに参加しました。お買物の多い多い人にはどう接したらよいかなど考え接しました。みどりっこバスサポーターに参加していると、お客さんが「ありがとう」「がんばってね！」と言われました。それで元気をもらいました。そして私から「おはようございます」「ありがとうございました」と声をかけると笑顔になってくださってうれしかったです。中学卒業するとこのようなボランティアが減るので、みどりっこバスサポーター３年連続でやれてよかったと思います。